

# 「地震で崩壊しない」

## 東電 現在の福島第一 4号機

東京電力は、報道やインターネットなどで取り上げられている福島事故関連の事項の中で、解説や訂正が必要と思われる事項を選んでホームページ上で解説している。

福島第一原子力発電所事故で住民の中でいま一番心配されている事項の一つである同4号機の燃料プールの現状について

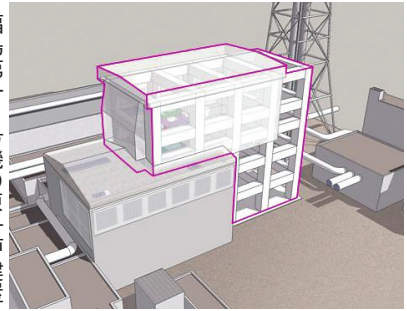
東北地方太平洋沖地震と同程度の震度6強の地震が発生したとしても、使用済み燃料プールを含め原子炉建屋が壊れないことを解析で確信し、さらに使用済み燃料プール

# 原子炉建屋カバー工事開始

## 福島第一4号機 燃料取り出しの第一歩

東京電力は福島第一原子力発電所4号機の燃料プール内にある使用済み燃料を取り出すため、原子炉建屋のカバー工事の本工事に着手している。

使用済み燃料プールからの燃料取り出しのため、燃料取扱設備の支持、燃料取り出し



福島第一4号機の原子炉建屋カバー設置予想図

し作業環境の整備、燃料取り出し作業に伴い発生する放射性物質の飛散・拡散抑制を目的とするもの。約六十九基(南北)×約三十一基(東西)×約五十三基(地上高)の大きさで、主体構造は鉄骨造であり、壁面および屋根面は風雨を遮る外装材で覆う計画である。屋根面および壁面上部には勾配を設け、雨水の浸入を防止する。

同カバーは隙間を低減するともに、排気はフィルタユニットを通じて行い、カバー内の放射性物質の大気への放出を抑制する。また、換気設備の運転状態やフィルタユニット出入口の放射性物質濃度等の監視状態が現場制御盤及び重要重要棟に表示され、異常時は

底部を補強して、耐震余裕度を二〇%以上向上させているとした。

今後も、年四回の定期的な点検を実施し、原子炉建屋および使用済み燃料プールの健全性を確認していくとしている。

米・EU規制最前線調査報告会

日本技術者連盟

日本技術者連盟は五月三十日午後一時半より、欧米先進国のストレステ

警報を発する。積雪・暴風・地震に対する短期許容応力度設計を実施し、建築基準法で定められる地震力の一・五倍の地震荷重を考慮している。

最初の工程として、燃料取り出し用カバーを構成するクレーン支持用架

成するクレーン支持用架構の基礎を支持する地盤を強固にするため、地盤改良工事を実施する。併せて4号機原子炉建屋への雨水浸入対策を進める。

4号機の原子炉建屋の

### 新刊抄 「今、原子力研究者技術者ができること」

有富正憲 編著

昨年三月十一日に東京電力・福島第一原子力発電所の事故が発生し、その十一日後の二十二日、編著者の有富正憲・東京工業大学原子炉工学研究所長は、事故対策のアドバイザー役として内閣官房参加に就任した。

有富教授をサポーターとするため、東京工業大学の有志が「プラント検討チーム」を立ち上げ、原子力安全・保安院や東京電力などから公表された資料、データを基に、事

故の経過を分析し、対応について検討してきた。いまだ十分な情報が得られていないものの、一部推測も加えながら、事故の進展分析と、今後、二度このような炉心熔融事故を起させないためには、どのような対応を取ればよいか、教訓として導き出すことを行ってきた結果をまとめたのが本書。

結論としては、原子炉停止直後の崩壊熱が大量に出る数時間、自らの原

費は税込み五千円で、振込手数料は参加者負担。振込先についての詳細はHPにて。問い合わせは同連盟(電話03・6229・1946)へ。

1日に原子力若手討論会

原子力学会原子力青年ネットワーク連絡会(YGN)は六月一日午後一時より、原子力若手討論会を東京・虎ノ門琴平タワー内で開催する。国

参加者は原子力関連企業・団体に所属する原則三十五歳以下の若手、本討論会の趣旨に合致すればこの限りでなく、様々な職種からの積極的な参加を求めている。

申込み締め切りは五月二十三日。問い合わせは原子力青年ネットワーク連絡会運営委員(電話0770・32・3649 /メール:goto.hiroyu.ki@e3.kepco.co.jp)まで。

原子炉が発生する蒸気で駆動する非常用冷却系を確保できる「マニュアル人間でない人材の育成」の重要性だ。しかも、その彼らには「事後は周りの人たちの心ない視線に耐えるしかない」覚悟さえ必要だ。「このような評価しきれない周りの人たちの心を、私たちはここ十年にわたって知らず知らずのうち創りだしてきたのではないだろうか」と本書は自問自答し、マヨアル化社会の危うさを克服する時期にきていると警鐘を鳴らしている。

培風館刊、二千二百円十税。

原子炉が発生する蒸気で駆動する非常用冷却系を確保できる「マニュアル人間でない人材の育成」の重要性だ。しかも、その彼らには「事後は周りの人たちの心ない視線に耐えるしかない」覚悟さえ必要だ。「このような評価しきれない周りの人たちの心を、私たちはここ十年にわたって知らず知らずのうち創りだしてきたのではないだろうか」と本書は自問自答し、マヨアル化社会の危うさを克服する時期にきていると警鐘を鳴らしている。

培風館刊、二千二百円十税。



株式会社テネックス・ジャパン  
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F  
(Tel) :03-5776-1511 (Fax) :03-5776-1512



Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services